

国際運輸労連 (ITF)

第 43 回世界大会

2014 年 8 月 14 日、ソフィア

都市交通委員会

報告書

都市交通委員会は 2014 年 8 月 14 日に開催された。

ステファン・ハイムリッヒ都市交通委員会議長が欠席のため、エド・ワット (米国) が議長を務めた。

ローサ・パヴァネリ PSI 書記長が挨拶し、ITF 加盟組合が直面する課題は PSI の課題と類似していると述べた。例えば、労働者の権利、特にスト権に対する攻撃、経済危機がもたらした高い失業率、国際通貨基金 (IMF) や世界銀行の政策、緊縮財政の影響などだ。パヴァネリ書記長はまた、これらの課題に対処するための組合の対案を策定し、労働者の力を構築し、スト権を守るために運動を展開する必要がある点を力説した。

議題 1: 報告者の選出

1. 新たに選ばれる都市交通委員会の議長を報告者とすることが合意された。
2. ウェイン・バトソン (ニュージーランド、RMTU) とティム・ビーティ (米国、チームスター) が投票立会人兼投票集計人に選ばれた。

議題 2: 大会テーマ文書

議題 3: 4 カ年活動計画

3. 議題 2、3 を同時に扱うことが合意された。

4. 浦田誠・内陸運輸部長が大会テーマ文書「グローバル危機からグローバル正義へ：交通運輸労働者の反撃」に言及し、以下の 2014-2018 年の ITF 都市交通委員会の優先事項の概要を説明した：
 - 多国籍旅客企業に関する戦略的な組合プログラム
 - 私たちの公共交通キャンペーン
 - 公共交通国際連合（UITP）との覚書の実施

5. 浦田は多国籍旅客企業に対する ITF キャンペーンは継続していくと強調した。国際連帯や組合間の調整がうまくいった例もあるが、まだまだやるべきことは多い。2013 年に UITP と結んだ覚書に基づき、作業部会を設置し、主に職場の暴力、幹線快速バス（BRT）などの新たな交通モードに関するリサーチに焦点をあてていく。私たちの公共交通キャンペーンは、今大会で立ち上がることになり、公共交通のさらなる自由化への反対、公共交通の促進と拡大、スト権を含む労働者の権利の保護、新自由主義政策の対案となる交通運輸政策の促進、組合の力を構築するための組織化などについて運動を展開することが求められる。また、他の国際産別と共同で取り組めるような公正な税制の問題などについても調整を図る機会があるだろう。

6. ルーアン・サバシング（ITF 法務アドバイザー）が、人権と労働組合権に関する動議が全体会議で採択されると同時に立ち上がることになる国際キャンペーン（www.right2strike.org）に参加するように代議員に促した。

7. ブラジル、フランス、ドイツ、インド、韓国、ルクセンブルク、ニュージーランド、ナイジェリア、ノルウェー、南アフリカ、スワジランド、英国、米国から 18 代議員が議論に参加し、以下の問題を提起した：
 - ナショナルエクスプレス、ヴェオリア、トランスデブなどの多国籍企業は反組合政策で悪名高い。例えば、米国デンバーのスーパーシャトル（トランスデブの子会社）の運転手は組合攻撃を受けながら、会社と初の協約を締結すべく闘っている。したがって、国際連帯と世界の組合が調整された行動を取ることが極めて重要だ。
 - 必須サービスを提供する要件から、スト権はしばしば都市交通では制限されている。ILO などの国際機関に対して、スト権が確保され、中核的 ILO 条約が批准されるようにロビイングするにあたり、ITF の支援が必要だ。スワ

ジランドなど、一部の国では国際労働基準が守られず、ストに参加した組合活動家が逮捕されるなどの問題が発生している。

- 都市部の人口が増加する中、交通運輸を含む公共サービスの提供は不可欠だ。民営化によってサービスは向上しない。公共交通は社会的な性質をもち、社会の全ての人ができるものでなければならない。そのため、組合は公共交通の保護と再国営化と投資を求める運動で主要な役割を果たす必要がある。公共交通が国営に戻された成功例もある。自由化反対運動の一環として、他の国際産別、特に PSI と協力することが重要だ。
 - 民営化されていなくても、公共交通でアウトソーシングが広がっている。アウトソーシングと闘うことが重要だ。
 - 民営化や公共交通促進運動に関する情報や経験を共有することは、組合の対応で中心的役割を果たす。
 - 組合は公共交通の促進と温暖化問題への対応で乗客団体などの市民団体と協力関係を構築することを検討する必要がある。
 - グローバル経済危機への対応として、政府が押し付けている緊縮財政策と闘う上で、「税の公正さ」を求める運動は中心的な手段となる。
 - 公共交通の促進運動と温暖化政策は連動しているが、この繋がりを強化するべきだ。地球が減れば雇用もなくなるため、組合はこれを主導的に進めるべきだ。自家用車を減らし、公共交通を促進することで、公共交通の雇用が増え、大気汚染や二酸化炭素の排出が減る。ITF の気候変動作業グループの活動に参加するよう都市交通労組に奨励する。
 - しばしば、コスト削減で最初に犠牲になるのは安全だ。旅客輸送では、このことは交通運輸労働者のみならず、交通の利用者や乗客に影響を及ぼし得る。したがって、都市交通委員会がもっと安全問題に焦点をあてるべきだ。
 - 世界中で人気が高まり、拡大している幹線快速バス (BRT) システムについて監視するべきだ。
8. ITF 内陸水運部会のニック・ブラムリー議長が、一部地域でフェリーも都市交通の一部をなしている点に言及し、内陸水運・沿岸海運労組の活動を都市交通委員会の活動にいかにか統合できるかを検討することを提案した。
9. 浦田は委員会の活動計画の中で、気候変動問題とスト権の保護が非常に重要だと再度強調した。

10. パヴァネリ PSI 書記長は、ITF と PSI が共同で活動できる分野がいくつかあると提案した。例えば、気候変動や、災害時に緊急対応を迫られる可能性のある公共サービス労働者の保護などの問題だ。
11. 委員会参加者は、全体会議で採択されたテーマ文書を全面的に支持した。
12. 委員会参加者は、提起されている 2014–2018 年の都市交通委員会の優先課題を承認した。

議題 4 : 動議

13. 委員会参加者は、第 29 号動議（メキシコシティの交通運輸と移動）を提案通り、採択した。浦田は動議に書かれているように、メキシコ市当局に書簡を送ってくれるよう、加盟組合に要請した。

議題 5 : 選挙

14. 2014 年 6 月に行われた路面運輸部会・運営委員会と鉄道部会・運営委員会の合同会議で、副議長を 3 名選ぶと決まったことに基づき、以下の役員が選出された：

議長	Asbjorn Wahl (Fagforbundet、ノルウェー) が全会一致で選ばれた。
副議長	Maya Schwiegershausen-Guth (ver.di、ドイツ) が全会一致で選ばれた。
副議長	June Dube (SATAWU、南ア)が全会一致で再選された。
副議長	Ed Watt (ATU、米国)が全会一致で再選された。

15. 委員会参加者は、別紙 1 の都市交通委員会の構成に合意した。委員には欧州運輸労連(ETF)の都市交通委員会の議長も含まれる。浦田は他の地域でも地域の都市交通機構を設置することを検討するよう、欧州以外の代議員に奨励した。
16. 新議長のアズビヨン・ウォールが挨拶し、立候補を支援してくれた代議員に謝辞を述べ、都市交通委員会の活動を次の 4 年間、前進させてゆく強い決意を表明した。他の新任委員も挨拶を行った。

17. 委員会参加者は、4年間の活動の後、議長を退任するステファン・ハイムリッヒ（ドイツ）に謝辞を述べた。ハイムリッヒにはITF金バッジが贈呈される。
18. スティーブ・コットン書記長代行が挨拶を行い、都市交通はITFの成長の可能性のある分野であり、委員会の活動計画は、都市交通労働者に勝利の大きな機会を提供していると力説した。

議題 6：その他

19. その他の協議事項はなかった。

ITF 都市交通委員会・役員

2014年8月14日時点

都市交通委員会役員	
議長	Asbjorn Wahl (Fagforbundet、ノルウェー)
副議長	Maya Schwiengershausen-Guth (ver.di、ドイツ)
副議長	June Dube (SATAWU、南ア)
副議長	Ed Watt (ATU、米国)
欧州運輸労連(ETF)都市交通委員会	
議長	Alan Sutour (CGT 運輸、フランス)